

指定校番号	30051	学級活動	○	生徒会活動	学校行事	別紙様式
-------	-------	------	---	-------	------	------

平成30年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立三次中学校	校長	迫田 隆範	生徒指導主事	平本 敏明
-----	-----------	----	-------	--------	-------

**取組事例名 『一斉ボランティア活動』**

**取組における育てたい資質・能力**

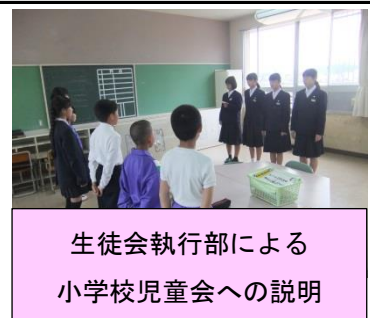
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・協調性」	1	「自己の良さ」	2

**取組のねらい『キーワード：自覚と責任・自己有用感・連帯感』**

- 一斉ボランティア活動を通し生徒会執行部の自覚と責任を持たせるとともに力量を高め、三次中学校生徒会活動を活発にする。
- 小中学校で連携して一斉ボランティア活動に取り組むことにより、児童生徒に地域社会の一員としての自覚と郷土を大切にすることを育てるとともに、自己有用感を高める。
- 部活動単位で活動することにより、上級生の指導力や部員同士の連帯感を強める。

**取組の具体的内容『キーワード：縦割り集団（校区内小中学校，部活動）』**

- 生徒会執行部による各小学校児童会への説明【小中】
- 執行部と部長の打ち合わせ会【中】
- グループ打ち合わせ会【中】
  - ・ 執行部からの説明
  - ・ グループ（部活動）ごとに分かれて打ち合わせ
    - 個人目標、発表、グループ目標決め、評価項目決め、
    - 当日の動きの確認（清掃の仕方など）、持参物、掃除道具など準備物の確認
- 当日の動き
  - ・ 開会式【小中】
    - 校長先生挨拶、生徒会長挨拶、各部（掃除場所）でのグループ目標発表（9グループ）
    - グループ別最終打ち合わせ
  - ・ ボランティア活動実施【小中】
  - ・ 閉会式【中】
  - ・ グループ（部活動）別反省会【中】
    - グループ（部活動）ごとに反省会を行う。
    - 自己評価、友だちからの評価、感想文
- 学級活動【中】
  - ・ グループ（部活動）別反省会で書いた感想文を学級班でリレーコメントをしながら、良かった点や頑張った点を評価し合う。その中から学んだことや気づいたことなどを記入する。



生徒会執行部による  
小学校児童会への説明



開会式



巴橋の清掃

※ 【小中】：小中学校合同での取組，【中】：中学校のみの取組

## 取組の課題・創意工夫『キーワード：小中連携』

### 【課題】

- ・ 三次中学校区内の小中学校の日程をそろえることが難しい。特に、小学校1校は中学校から距離的にも遠いため、当日の時間調整においても難しい面がある。
- ・ 当日までの取組が各小中学校であり、小中（生徒会・児童会）のつながりが弱いと感じる。

### 【創意工夫】

- ・ みよし学園生徒指導部会が中心となり企画立案する中で日程の調整を行った。
- ・ 生徒会執行部が各小学校へ出向き、児童会へ「ボランティア活動についての説明・協力をお願い」を行い、つながりをもつことができた。また、生徒会執行部の生徒は先輩としての意識を高めることができた。

## 取組の成果（効果）『キーワード：つながり』

- ・ ボランティア活動の活性化については、みよし学園一斉ボランティアを5月1日（火）に、三次小学校5・6年生、河内小学校児童と合同で地域の清掃活動、福祉施設訪問等を行った。生徒会を中心に計画し、部活動単位での縦割り集団で、欠席した生徒を除く、全校生徒が取り組むことができた。
- ・ 【学校生活アンケート（7月）より】

項目	生徒	保護者	教職員
ボランティア活動に積極的に取り組んでいる	84.9%	74.0%	89.5%
生徒会活動や学校行事に積極的に取り組んでいる	91.8%	79.7%	100.0%

- ・ 当日は、生徒児童だけでなく保護者、地域の方も参加していただいた。また、ケーブルテレビや新聞にも取り上げていただき、取材に対して、巴橋の歩道のゴミ拾いや水をまいてのブラッシングをした生徒は「地域の人が気持ちよく歩けるようにしたいと思ってブラシをかけた。」という感想を述べていた。

## 今後の展開『キーワード：継続・改善・発展』

- ・ 三次市立三次中学校独自で「全校ボランティア」を始めて17年になる。これを小学校と同日に行う取組へと発展させ、さらに小学生と中学生が協働するようになって4年になる。今年度、新たな取組として中学校生徒会執行部が事前に各小学校へ出向き、取組の説明を行う事ができた。今後はボランティア活動での一層の関わりを深めていく。また、今年度初めて、生徒会・児童会共同で「より良い学校生活を送るための標語募集」を行った。これらをもとに、小中での児童生徒の関わりを量・質ともに高めていく。

## 他教科との関わり『キーワード：地域貢献』

- ・ 道徳の時間（勤労・奉仕、社会の一員、郷土愛）  
ボランティアの意義を考えるとともに、郷土を大切に思う気持ちを高める。
- ・ 国語（言語活動）  
頑張ろうと思うことや個人目標を自分のことばで相手にきちんと伝えられるようにする。  
600字～800字にまとめて感想を書き、自分の考えを整理する。
- ・ 総合的な学習の時間（ふるさと貢献）  
グループの目標や個人目標を決定することを通して、ボランティアに対する気持ちを高める。  
奉仕の気持ちを持ち、目標達成に向けて活動する。